

みどりの風

会誌部宣 亥辛巳味命

山口県自然観察指導員協議会 機関誌

山口自然観察会 No.116

2022年10月(秋 号)



私たちは地球生命体の永遠なるいのちを願って活動しています

今後の会議の予定

監 査 日 時 令和4年10月30日(日)

第1回役員会 日 時 令和4年11月 6日(日) 10時~下松市中央公民館

令和5年度 定時総会

11月19日(土) 12:30 受付 十種ヶ峰青少年自然の家

13:00 総会

14:00 講演(伊良尾山について)

15:00 観察会(伊良尾山)

17:20 夕食

19:30 懇親会(ロッジ)

11月20日(日) 7:00 朝食

8:30 十種ヶ峰登山

12:00 解散

令和5年度 定時総会に参加を希望の会員の方は、同封の葉書に必要事項
を書き込んで、11月10日(木) (必着)までに、ご投函ください。

表紙の写真

イボイボナメクジ *Granulikimax fuscicornis*

(下関市豊田町矢田・西八幡宮 2016.5.11)

ホソアシヒダナメクジ科に属する陸産貝類の1種。肉食性の小形のナメクジ。
軟体部の背面全体に小さな顆粒状突起があることが、和名の由来になっている。

一般に知られるナメクジ類とは異なり、潮の引いた岩礁帯で見られるイソアワ
モチやドロアワモチの仲間に近い。約30年前に記載・報告(湊, 2015)され、
今日までに19県(湊, 2015)から記録がある。同じ場所から複数の採集が難しい
というほど稀産で、山口県内でもこれまでに5カ所だけ見つかった。

落葉下のレキ岩の下などに生息する、体長約1~2cmと小さい。

増野 和幸 会員

寂地山・小五郎山の保全活動及び植生調査のお誘い

本部・第2支部

定点観測を行っている寂地山縦走路と小五郎山金山谷ルート(登山道)の点検整備を下記の要領で行います。来春も点検整備を行って、植物(カタクリ等)観察のシーズンを迎えたいと思いますので、ご協力よろしくお願いします。

○ 寂地山

日時 10月15日(土) 9:00~16:00

集合 9:00 寂地峡入口駐車場

※緑のスタッフジャンパー目印

予備日 10月16日(月) 9:00~16:00

○ 小五郎山

日時 10月22日(土) 8:00~17:00

集合 8:00 錦川清流線錦町駅

※緑のスタッフジャンパー目印

予備日 10月23日(日) 8:00~17:00

持参物 弁当、お茶、タオル、軍手、雨具、のこぎり、鎌

注意事項 ・スズメバチ対策…黒い服装は不可

・保険の対応は各自でお願いします。

・参加希望者は、前日までに下記へ連絡ください。

(当日、飛び入り参加も歓迎!)

※連絡先 大田 TEL・fax 0833-46-0103

携帯 090-1189-8769



カタクリ



ヤマシクヤク

本部・第3支部合同活動報告 かたつむり観察会・岩国市周東町

令和4年6月26日(日)

第3支部 増野和幸

恒例となった梅雨時期の「かたつむり観察会」ですが、今年の観察場所は、岩国市周東町にある二井寺山・極楽寺(245m)でした。この二井寺山極楽寺樹林は、山口県自然記念物に指定され、豊かな植生が保全されています。また、山頂の極楽寺は、聖武天皇の時代(奈良時代)、744年に建立された由緒ある寺院で、十一面観音菩薩が安置され、県指定の薬師堂など多くの文化財があるようです。さて、多くの植物が繁茂し落葉などが堆積した林床では、いくつかの陸産貝を観察することができました。過去にはヤマクルマガイ、スグヒダギセル、シメクチマイマイの3種が記録されていますが、これまでにほとんど調査や観察会は行われていません。そういう意味でも、今回の観察会はとても関心のもたれる機会となりました。当日は天気にも恵まれ、数日前には雨天もあり、観察には最適な状態でした。遠方にもかかわらず6名の参加があり、12個の観察眼で、楽しく観察をすることができました。

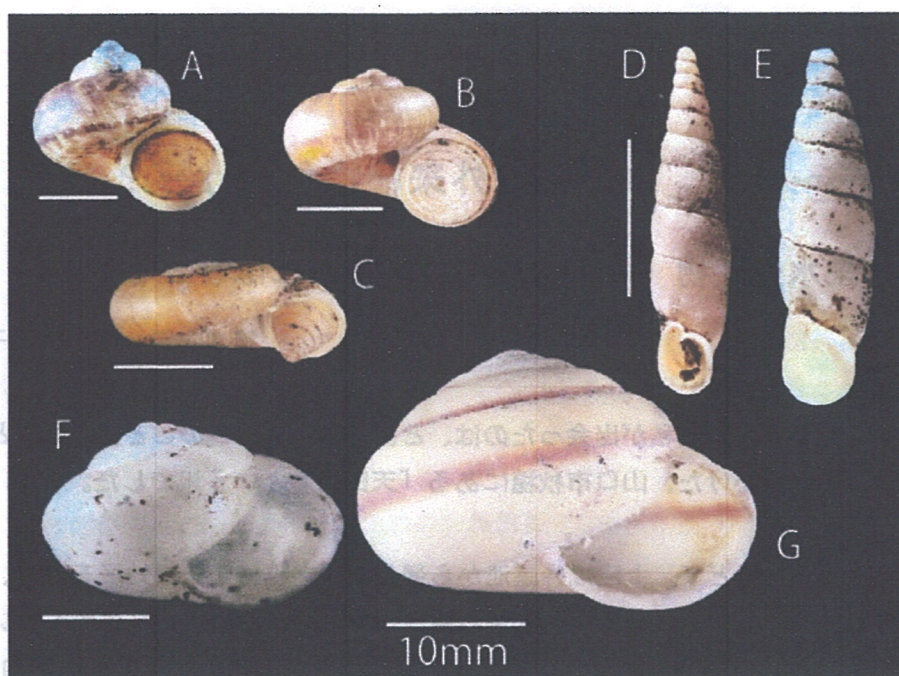
観察内容は、落葉や倒木の下から7種類を観察・記録しました。上記の3種類以外は初めての記録であり、県RDBの基礎データとして記録に残しておきます。採集品の内訳は、蓋を持つヤマタニシ(10個)、アツブタガイ(2個)、ヤマクルマガイ(2個)。煙管形のキセルガイ類としては、スグヒダギセル(6個)、カワモトギセル(1個)。マイマイ類としてコベソマイマイ(6個)、コハクオナジマイマイ(3個)でした。

駐車場に車を置いて山頂までの山道を観察しながら上りました。山頂にある立派な本堂の前で一同がくつろいでいると、おつとめを終えられたご住職がお出になるなり、あいさつをされました。その後、しばらくありがたいお説教をいただきました。お礼のあいさつをしてお寺を辞し、駐車場まで下山をし、昼前に解散しました。

遠路にもかかわらず観察会に参加していただいた皆さん、お疲れ様でした。



(植物の根元や落葉の中を熱心にさがす参加者)



(採集した陸貝：A ヤマトニシ、B アツブタガイ、C ヤマクルマガイ、
D スグヒダギセル、E カワモトギセル、F コハクオナジマイマイ、
G コベソマイマイ)



(本堂前で一同、撮影 増野)

え～～！？ 水の中は外来植物だらけ～？！！

—外来水生植物「オオフサモ」天田川にはびこる！—

第3支部 小林玲子

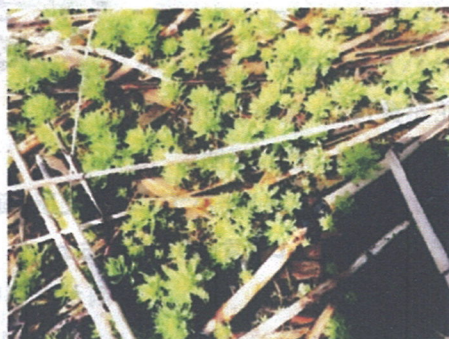
その見覚えのある水草に私が出会ったのは、とある暑い夏の日のこと。元同僚と一緒にドジョウ採りに出かけた、山口市秋穂にある「天田川」という川でした。

天田川は、幅3mほどで、上流は外屋池から発し、途中秋穂の天田地区を潤し、いずれは秋穂の海に流れ注ぐ、比較的小さな灌漑用河川です。水深は浅くひざ丈くらいしかありません。しかし、川の護岸はコンクリートで固められ、川底までの深さは約3m。梯子でもないと降りられません。元同僚と一緒に、降りる場所を探しながら川沿いを上流に向け歩いていくと、だんだん水草が茂っている場所が現われて、とうとうその水草が、両護岸まで川面全体をびっしりおおっているという状態になりました！ 水面はまったく見えません。しかもその状態が川上に向かって何十メートルも続いているのです！ 「川はどうなっているのだ？！」とびっくりして、よくよくのぞき込んで見ると、おおっているのはなんだか見覚えのある水草です。しかもそれは、以前私がペットショップの熱帯魚コーナーで、「きれいな水草だなー。」と思って見たものと、まったく同じものでした。「え？なんでペットショップにある熱帯産の水草が、こんなところにあるの？」それが私の第一印象でした。

この水草は南米アマゾン川原産、アリトウグサ科の水生植物「オオフサモ」です。別名「パロットフェザー」ともいい、名の通り、葉が羽状に分かれたとてもきれいな水草です。近種にミリオフィラムなどがあり、熱帯魚店などでも売られています。もともと日本には無かった水草ですが、アクアリウムやビオトープなどの観賞用として各地に持ち込まれ、それが今、各地で野生化しているのです。日本では特定外来生物に指定されています。山口県では、光市の島田川での報告があるようです。この秋穂の天田川にどのようにしてオオフサモが入ってきたのかは謎です。上流には公園やキャンプ場もあり、やはり心無い人が気軽に川へ捨ててしまったのが原因でしょう。

水草の外来種としては、「オオカナダモ」や「ホテイアオイ」などが有名ですが、「オオフサモ」まで入ってきたのかと、正直びっくりです。これらの植物は、とにかく生命力が強く、熱帯産であるにもかかわらず、冬になっても枯れません。3月と4月初旬に、指導員の何人かの皆さんを現地にご案内しましたが、その時は夏ほどの繁茂はしていませんでしたが、予想通りしっかりと冬越しして、あちこちに群生が見られました。

これらの外来植物は、大繁殖して川の流れを悪くしたり、在来種を追いやったりする本当にやっかいな生物です！ 持ち込まれないことが一番なのですが、入ってきた以上、その情報をしっかりキャッチして現状を定期的に見守り、必要ならば除去を手伝ったりすることが私たちの役目なのかな、とも思う今日この頃です。



(天田川に野生化したオオフサモ)

山梨県北岳の植物と自然(その3)

次はミネウスユキソウだと思う。図鑑と少し違うが、花が終わりかけて、その右はキタダケトリカブト。3000m以上の所で花も背が低い。



北岳山荘・間ノ岳方面へ行く道と、八本歯のコル・広河原方面の道が分かれる。私達は八本歯のコルの方の帰る道を選んだ。この辺りからはかなり広い範囲がお花畑である。次はタカネイブキボウフウである。頂生花序の花は白く、側生花序の花は紅色をなす。全花序の花が紅色の場合もあるそうだ。その右はイワベンケイ。



次はタカネコウリンカ。萼が黒っぽい。その右はキンロバイ。



次はハハコヨモギに似ているが、花が黄色で、葉が白っぽくないので別のものと思う。不明。

八本歯のコルが近づくと岩がゴロゴロした所を通る。こういうのをゴーロと言うのだろう(右上)。



雨が上がり

八本歯の頭らしき山が見えた。岩の上にタカネビランジが咲いていた(その右)。



次は八本歯のコル(鞍部)付近を象徴する岩である。その右はクロウスゴ(ツツジ科)。ブルーベリーの仲間である。



次はシラビンだと思う。

八本歯のコルから大樺沢へ向かう左俣コースに入るとハシゴの多い急坂を下る(右下)。

次はミソガワソウ。ジャコウソウに比べて花が青っぽい。

10:00 少し早いが大樺沢が目前に見える所で昼食にした(右)。

ここから少し下がったところで雪を見た。今年は梅雨が早く明け、その後猛暑が3週間以上続いたので、今まで雪を全く見なかったが、標高2500mくらいだろうか、僅かに雪が残っていた。その左はクガイソウ。

次はイワオウギ。前にも出たが花が終わりかけていた。今度は丁度満開だ。タイツリオウギの可能性もある。その右はイブキトラノオ。

次はかなり人気のある植物である。エゾノハナシノブ(ミヤマハナシノブ)である。大樺沢(おおかんばざわ)を通らなければ見られなかっただろう。ラッキーだ。

大樺沢は何度も川を渡る。右上のようなちゃんとした橋があるところもあるが、川の中を水につかりながら歩かなければ

成らないところもある。山頂から帰る途中、かなり昔この山に登ったことがあるAさんが、大樺沢



は歩いて通れるかどうかを、こちらから登ってくる人二人に尋ねた。二人とも大丈夫だと言う返事が有った。朝の雨でその後増水したのではという不安もあったが、あえてこちら側を通った。



も

右の写真の場所などはヤバイ感じだった。その右はミヤマシシウド。大樺沢は次第に急流になって、橋がなければ渡れないようになる。その下流部分である。

次の橋は建築用の鋼管と鉄製の足場板で頑丈に作られている(上)。

次の橋は少し怖い感じである。



雨が降り出して歩きにくい。右上はナニワズではないかと思う。来年春の花の蕾ができています。次はハエドクソウだと思う。



最後に広河原の吊り橋を渡って、観察会は終了した。全員無事で何よりであった(右上)。15:15 に広河原のバス停に着いた。16:00 頃宿舎の白雲層に着いた。宿の温泉に入り、やり遂げたという満足感に浸った。植物は不明の物を除いて約 63 種記録した。初めて見た植物もかなりあった。



毎日のように雨が降り、北岳肩の小屋へ登って行く 20 日だけが天気が比較的良く、雨が降らなかった。幸運だったかもしれない。今回はコロナ感染の爆発、悪天候など悪条件が重なったが、それでも中止せずにやり遂げたので、良かったと思う。昨年一度中止しているの、今年もし中止になれば、北岳は諦めたかもしれない。そのくらい参加者全体が高年齢で、参加者の平均年齢は 69, 3 歳だった。

翌日はバスの中で参加者は北岳登山中に見た植物を確認しながら、大満足で帰途についた。

【完】

北浦自然観察会(第6支部) 2022年10月から2023年1月までの行事の詳細

第6支部 永井 要明

2022年

10月23日(日)、北浦自然観察会総会 来年度の行事計画、会計担当の交代

10:00 萩市堀内 喫茶店「潮騒」

10月29日(土)、30日(日)一泊二日 鳥取県・兵庫県境の氷ノ山の紅葉、裏大山の紅葉 城崎温泉宿泊 バス定員あり 参加費 25,000円

【4:00 萩市中央公園集合】

11月13日(日)、島根県益田市大神ヶ岳・赤谷山 紅葉

7:30 萩市中央公園、8:30 津和野道の駅

自家用車乗り合わせ 参加費 2500円

11月19日(土)、山口自然観察会総会

13:00 総会 14:00 ジオパーク学芸員伊藤さんの講演

15:00 伊良尾山の火山噴火物の地層

20日(日)、神角～山頂～山麓駐車場(植物観察)後、解散

12月4日(日)、美祢市花尾山

9:00 萩市中央公園集合 10:00 別府弁天池

自家用車乗り合わせ 参加費 1,000円

2023年

1月8日(日)、広島県宮島弥山 行きは登山道、帰りはロープウェーを利用

7:00 萩市中央公園 7:30 絵堂インター

バス定員有り 参加費は 5,500円

持参品 弁当・水筒・メモ帳 有ればカメラ・杖・双眼鏡
服装 歩きやすい服装、トレッキングシューズ又は長靴
カッパ又はポンチョ、リュックサック、帽子

申し込み・問い合わせ

永井要明 〒759-1421 山口市阿東地福上 1103

Tel.090-8240-9785 FAX 083-952-0041

メールアドレス ynagai@c-able.ne.jp

令和4年度 第4回役員会議事録

日時 令和4年9月4日(日)10:00~12:00 場所 下松市中央公民館 工芸工作室

・出席 7名(大田、永井、松原、蔵田、増野、小林、植田)

議事 ①令和5年度定時総会について

11月19日 12:30 受付 十種ヶ峰青少年自然の家

13:00 総会

14:00 講演(伊良尾山について)

15:00 観察会(伊良尾山)

17:20 夕食

19:30 懇親会(ロッジ)

11月20日 7:00 朝食

8:30 十種ヶ峰登山

12:00 解散

②中国五県交流会について(9月24日~25日広島県北広島町・安芸太田町)

参加者 7名(黒田、永井、平田夫妻、大村、長嶺、大田)

③黒田氏環境大臣賞受賞について 受賞を祝う会開催

10月2日(日)14:00~ ホテル サンルート徳山

④「みどりの風」編集会議 9月15日原稿締め切り

○その他

- ・会費未納者について 残り25名
- ・緑の少年隊交歓大会コロナのため中止、下松切戸川観察会雨天中止
- ・市民公開講座(京都大学・市連携事業)10月1日(土) 9:00~
- ・第59回水環境フォーラム山口 10月1日(土)10:00~
- ・日本鯨類研究所発行「日本鯨紀行(西日本編)」の紹介、配付

《 編集後記 》

秋号をお届けします。第7波の新型コロナ感染者数は減少しつつあります。4回目のワクチン接種を済ませた方も多いと思います。引き続き感染対策を徹底して気を付けてお過ごしください。

11月には、阿東町で令和5年度定時総会が開催されます。お誘い合わせの上、ご参加ください。

台風14号は下関を通過し、日本海上を東進しました。中心から離れた場所でも気を抜くことが出来ない状態が続くと思います。

これからは、自然観察に良い機会となるでしょう。レポート・写真等お待ちしております。(U)

山口県自然観察指導員協議会機関誌
＜みどりの風＞

■発行 山口県自然観察指導員協議会

会長 大田 和彦

〒744-0043 下松市東陽 2-2-5

Tel(Fax)0833-46-0103

■機関誌編集長 植田 高弘

〒759-6603 下関市安岡町 8-14-21

Tel(Fax)083-258-2706